

2021年度
私費外国人留学生選抜

問 題 紙

小論文（日本語）

2 ページ

解答の書き方

1. 解答は、解答用紙の所定の欄に、はっきりと記入すること。
2. 受験番号は、解答用紙に必ず記入すること。
3. 解答を訂正する場合には、きれいに消してから記入すること。
4. 解答用紙には、解答と受験番号のほかは、いっさい記入しないこと。

注 意

1. 監督者の「解答始め」という指示のあるまで、問題紙を開かないこと。
2. 「解答始め」の合図と同時に、解答用紙に受験番号を必ず書くこと。ただし、氏名は記入しないこと。
3. 問題の内容についての質問には、いっさい応じないが、問題紙にページ不足・不ぞろい・印刷不良があるなど、その他の用事があるときは、だまって手をあげて、監督者の指示を受けること。
4. 解答を終えて退室を希望する者は、だまって手を挙げて申し出ること。
5. 問題紙と下書用紙は持ち帰ること。

以下の文章を読んで、問題に答えなさい。

公務員には、志を持ち、一生懸命働く、真面目で誠実な人が多いのは確かです。しかし、ニュースなどでは公務員が政治家の意向を付度（注1）して公正な業務の遂行をしなかったのではないかと、業務でミスをしたり、それを隠蔽しようとしたのではないかなど「不祥事」がたくさん報道されています。そうしたことはなぜ起こるのでしょうか。私は、その原因のひとつは、公務員の世界の「閉鎖性」にあると思っています。学校を卒業してすぐに公務員になって、そのまま定年まで勤め上げる人の割合が高いこともあって、どうしても公務員の世界は狭いものになりがちです。

だから、世の中の感覚とずれたものであっても自分たちの世界の理屈が優先されるようになり、「付度する」という発想も出てきてしまいます。付度というのは同じ文化の中で育っている、同質の集団の中だから生まれることです。異文化の中にあっては、説明がなされなければ、何とその文化の中での正解かの判断ができないため、付度するにもしようがないのですから。

組織の上の人の意向は汲んでおいた方がよいからと、公正ではないやり方で物事を進めてしまうなど、付度を契機に発生する不祥事は、公務員の真面目さが世界の狭さによってゆがんでしまうために起こることだと思います。そう考えると、やはり公務員の世界を広げること、異分子を入れてかき混ぜること、そして、公務員のしていることが世の中に見えるよう、透明性が高く、風通しのよい状態をつくることが重要です。

透明性をもたせるということは、国民が公務員の仕事をよく見られるようにしておく、ということですが。それができれば、たとえ公務員の常識が世の中の常識とずれてきても、早い段階で外から指摘してもらうことができます。また、付度を求める変な圧力がかかってきても、公務員は衆人環視のもとで仕事をしているのでそんなことはできないからと、断りやすくなります。つまり、透明性を保つことは、公務員が付度しなくてすむ、不公正なことをしなくてすむということにもつながっていくのです。

ところで、不正をはたらいた人やミスを犯した人は責任を問われなくてはなりません。しかし、何か不祥事が起こったときに、悪いことをした人を責めるだけでは問題は解決しません。

公務員には大きな権限があります。税金から給料をもらっている立場でもあります。だから、きちんとしなくてはいけないのは当然です。しかし、その分、一人ひとりに多くの圧力がかかっていること、近年は人の数は減っているのに業務量は大幅に増え、多忙な中でミスが起こりやすくなっている環境にあることも認識しなくては、現状を改善していく方法は見つけられないのではないかと思います。

重要なことは、公務員が置かれている状況を理解した上で、根幹の原因を第三者の意見も聞きながら冷静かつ丁寧に分析し、改善策を積み上げて、何があっても不正を働かなくてすむ仕組みを根気強く取り入れていくことではないでしょうか。

そのようなことを公務員であった私がいうと自己弁護しているように聞こえるかもしれませんが。しかし、『失敗の科学—失敗から学習する組織、学習できない組織』（マシュー・サイド著、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2016年）という本でも示されているように、失敗を責めただけでは失敗の繰り返しは止まりません。失敗から積極的に学び、繰り返さないように策を打っていくことが大切なことなのです。

昨今、小さなお子さんが虐待で犠牲になるニュースが相次いでいます。そのようなときには児童相談所（注2）の不手際が責められますが、それについても同じで、責めるだけで組織がよくなることはありません。

せん。

それぞれのケースで児童相談所の判断のミスや遅れなど、いろいろな失敗があったことは事実でしょう。しかし、その事実を目を向けるのと同時に、虐待の通報がこの10年で4倍に急増しているのに対して、児童相談所の専門の職員は1.5倍ほどにしか増えていないという事実や、虐待は児童相談所がかかわれなかったことで起きるケースのほうが多いという実態も踏まえて、冷静かつ客観的に、そして総合的に検証していかななくてははいけないはずです。

———中略———

児童相談所間の連携がうまくいかずに子どもを救えなかった、という出来事の後、全ての児童相談所で、再度、全事例を確認するよう指示が出されました。そうした作業が加わったことで児童相談所では、もともと忙しさが限界を超えているような状態だったのに、さらに負担が増したという声も聞きました。外からは厳しい批判、体制の強化は遅れがちで職員の負担は過重になる一方という状況で、虐待を本当に減らすことができるでしょうか。さまざまな組織の中で、これに類することは少なくなく、本質を見失うことなく対処する難しさを実感します。

(出典：村木厚子『公務員という仕事』ちくまプリマー新書、2020年)より抜粋、出題にあたって文章の一部を省略、加筆・修正した。

注1：他人の気持ちを押し量ること、最近では目上の者の気持ちを押し量って、一般的にはよいとされないことをするとの意味で使用されることもある。

注2：子どもに関する家庭その他からの相談に応じ、子どもが安定して生活できるような環境を整えて保つこと、子どもの権利を守ることを主な目的とする行政機関。

問題1 この文章の筆者は、公務員の不祥事について、なにが原因であると考えていますか。200字程度で説明してください。

問題2 公務員によるミスや失敗が発生した場合には、それにどのように対処すべきでしょうか。文章中の筆者の考え方も参考にしながら、400字程度であなたの意見を述べてください。